

試験WGについて

令和4年11月1日
経済産業省 商務情報政策局
情報技術利用促進課

試験WGについて

- 「新たな日常」を踏まえた情報処理技術者試験の在り方について、今年度は以下について検討（年度内に3回程度開催予定）
 - 自宅での受験が可能となるインターネット試験（IBT：Internet based Testing）の実証試験を踏まえた本格導入の可能性
 - 高校、大学等での情報処理技術者試験の更なる活用に向けた課題

■ IBTに向けた前回までの検討

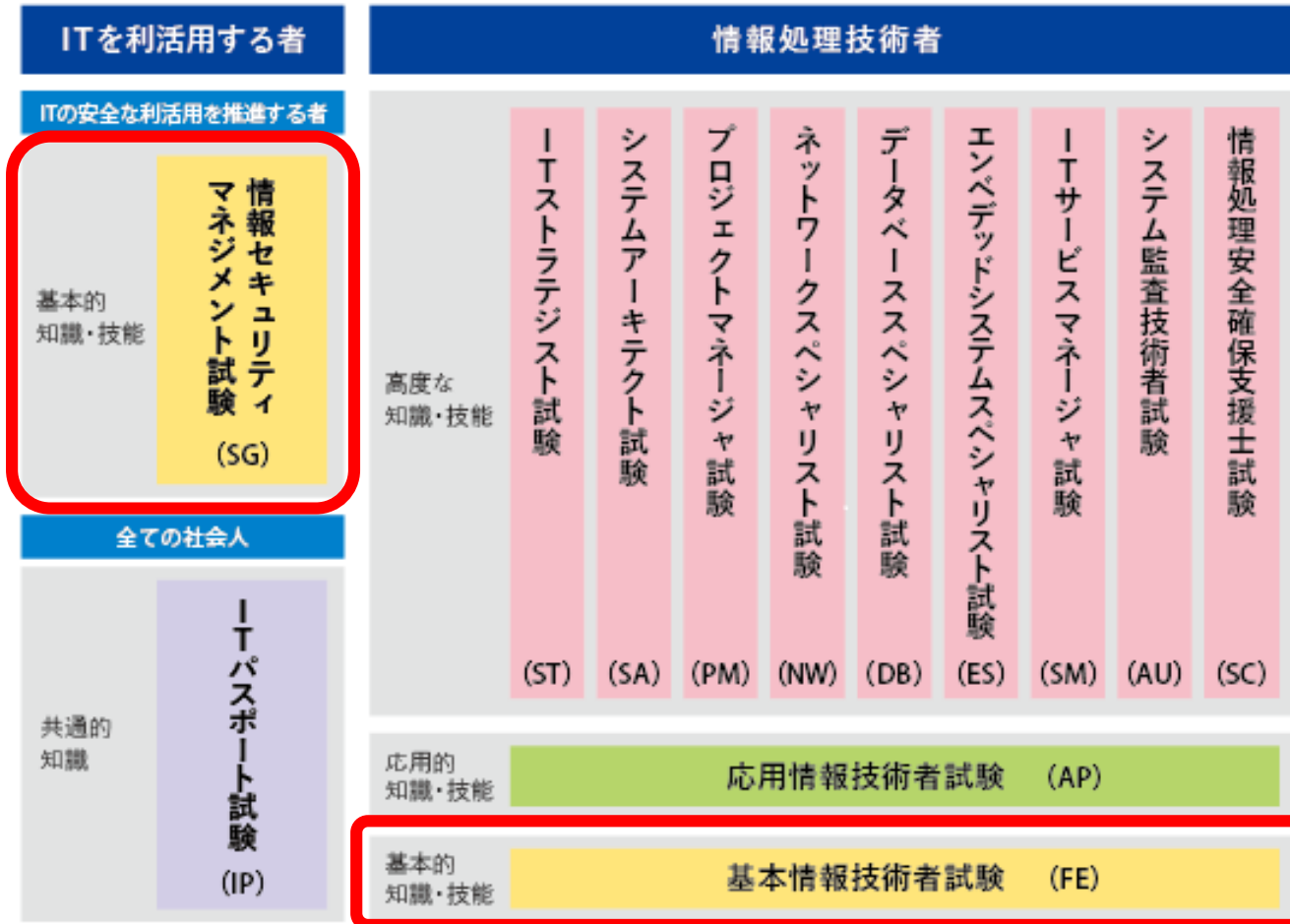
論点	対応方針
IBT導入を検討する試験区分	<p>情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただしIBTに必要な受験環境（PC、Webカメラ、安定した通信環境、個室的空間）を用意できない者も想定されるため、専用会場を利用するCBT方式も併用する。（該当の3試験区分は既にCBT方式で実施中） ・ 情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験について、補正予算事業により先行的にIBTの実証、初期整備を行う。 ・ 不正監視の在り方について実証を通じて検証する。
IBT/CBTのメリットを活かした受験機会の拡大（通年試験化）	<p>ITパスポート試験は既に通年試験を実施。情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験の通年試験化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通年試験化に必要な項目応答理論（IRT）による採点の導入、これに伴う試験問題の全問小問化・必須化 ・ 基本情報技術者試験におけるプログラミング言語の出題見直し ・ 出題数・試験時間の見直し ・ 再受験間隔方針（リテイクポリシー）の設定
試験問題の公開の在り方	サンプル問題を可能な限り早期に提示する。

■ 現在の対応

現在の対応状況
<p>IBT実証試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IBT実施・運営における課題の抽出 ・ IBT固有のリスクに関する検証（実証試験） ・ 情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験 <p>第1弾 R4年10月実施 第2弾 R4年10-11月実施</p>
<p>情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験の通年試験化を公表（令和4年4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験要綱（出題範囲）、シラバス等の改訂
<p>サンプル問題の公開（令和4年4月）</p>

(参考) 情報処理技術者試験の体系

国家試験

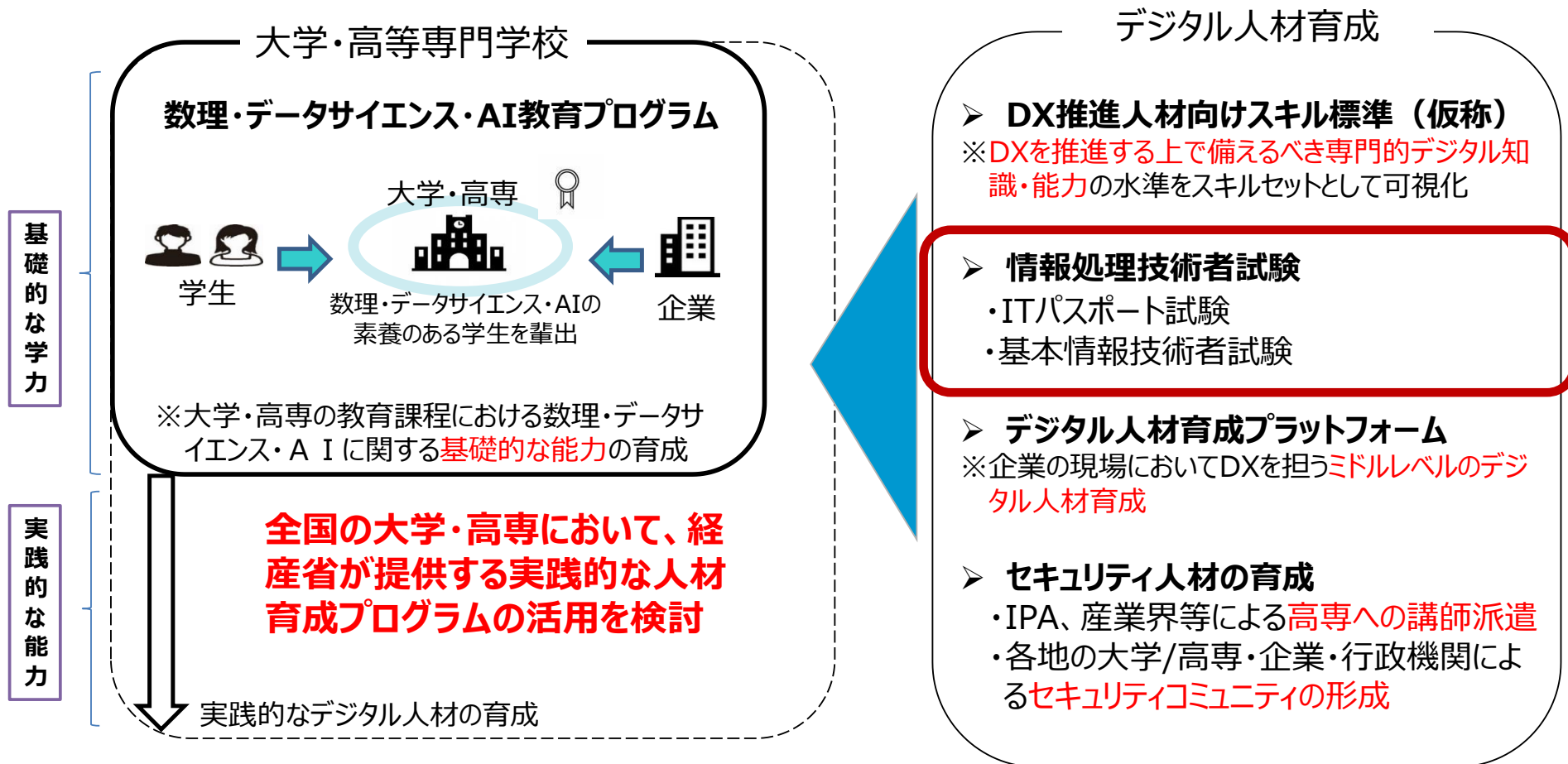


※ ……IBT実証試験の対象試験区分

(参考) 実践的なデジタル人材育成に向けた高等教育機関との連携イメージ

- 高等教育機関（大学・高専）と経産省・IPAが提供する実践的な人材育成プログラムの連携を通じて、デジタル時代に必要とされる実践的なデジタル人材の育成を目指す。

文部科学省  経済産業省



(参考) 高校、大学等における情報処理技術者試験の活用

■ 大学における情報処理技術者試験の活用

(2017年度調査時点)

活用内容	大学数
情報処理技術者試験を活用している大学・短大	361校
－入試優遇	240校
－単位認定	125校
－シラバスの一部又は全部を参考とした授業カリキュラムの策定	87校
－受験対策支援講座の実施	154校
－受験を推奨（受験料補助、合格者の表彰、報奨金等支給）	137校

(出典) IPAホームページ

https://www.jitec.ipa.go.jp/1_22example/index.html

■ ITパスポート試験等の活用事例をIPAホームページに掲載している高校、大学等

(2022年10月時点)

教育機関	掲載校
大学・高専	77校
専門学校	2校
高校	36校

(出典) IPAホームページの掲載事例を事務局集計

<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/about/example.html#daigaku>